

尿酸値とその他の検査値がどう変化しているでしょう？

検査日		年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	
尿酸値 (mg/dl)									
高尿酸血症	薬物療法 3~6か月かけて 6mg/dl以下に	10.0							
		9.8							
		9.6							
		9.4							
		9.2							
	生活習慣改善	合併症 あり 注1	9.0						
			8.8						
			8.6						
			8.4						
			8.2						
	痛風発作 または 痛風結節 あり	8.0							
		7.8							
		7.6							
		7.4							
		7.2							
高尿酸血症予備軍		7.0							
ガイドライン における治療 目標	痛風関節 炎の 発症、再 発予防の ためのコ ントロール	6.8							
		6.6							
		6.4							
		6.2							
		6.0							
	望ましい 治療目標	5.8							
		5.6							
		5.4							
		5.2							
		5.0							
4.8									

体 重		kg						
血 圧	収 縮 期 血 圧	130未満						
	拡 張 期 血 圧	85未満						
腎	血清クレアチニン	男1.2未満 女1.0未満						
肝機能	AST(GOT)	46未満						
	ALT(GPT)	40未満						
	注1 γ-GT(γ-GTP)	80未満						

注1 腎障害、尿路結石、高血圧、高脂血症、虚血性心疾患、耐糖能異常
 注2 尿酸排泄促進薬 ベンズプロマロン内服 は 毎月検査

(参考資料)
 高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン
 (日本痛風・核酸代謝学会)

教材No. B-11

【教材のねらい】

・自分の尿酸値は治療が必要な段階にあるのかどうかを知る。また経年変化をみることにより、自分の生活習慣のどこが尿酸値やその他の検査値の変化に関係しているのかについて気づくことができる。

【資料の使い方】

・クレアチニン値(腎機能低下の確認)、肝機能検査データについても併せて確認し関連づけて説明する。

・尿酸値の経年変化を記入し管理目標を確認する。またその他の関連する検査値の経年変化についても記入しておく。

・健診データを記入しておき、検査データが変化したときにはどのような生活上の変化(生活習慣の変化、治療開始など)が起きているかを考えてもらう。